

月刊 響都

December 2023



気を付けてね！ ホールでの過ごしかた

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！  
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2023  
12 / 2

# Promenade Concert

## プロムナードコンサート No.405

会場：サントリーホール

指揮／大友直人

サクソフォン／上野耕平\*

オルガン／福本茉莉\*\*

♪サン＝サーンス：交響詩《オンファールの糸車》op.31（約11分）

♪デュビュニオン：アルトサクソフォン協奏曲 op.89《英雄的》(2021)  
[上野耕平委嘱作品／世界初演]（約32分）\*

♪サン＝サーンス：交響曲第3番 八短調 op.78《オルガン付》（約46分）\*\*

 東京都交響楽団

# PROGRAM NOTES

今日のコンサートでは、2年前に完成したサクソフォン協奏曲が世界で初めて演奏されます。コロナ禍に一度演奏会が中止となってしまった曲ですが、ようやく披露される日が来ました！後半はオルガンとオーケストラによる壮大な響きをお聴きください。

## サン＝サーンス：交響詩《オンファールの糸車》op.31

フランスの作曲家サン＝サーンス(1835～1921)は、86年という長い生涯の中で、オーケストラやピアノのための作品、教会音楽、オペラなど、じつに幅広いジャンルの音楽作品を残しました。また天文学や哲学や数学も得意とし、マルチな才能を示したそうです。

そんなサン＝サーンスが尊敬していた音楽家にフランツ・リスト(1811～1886)がいます。リストはオーケストラで物語を描くような「交響詩」という新しい音楽ジャンルを生み出しました。サン＝サーンスもリストにならって、1871年に初めての交響詩を発表しました。それが《オンファールの糸車》という作品です。ギリシャ神話の英雄ヘラクレスが、リディアの女王オンファールの美しさに心を奪われ、彼女に言われるがままに糸車を回したというお話に基づいています。

ところで、この曲が書かれた1871年、フランスは普仏戦争でプロイセン王国(のちのドイツ帝国)に負けました。それをきっかけに、音楽ではドイツに負けないぞ！とばかりに、サン＝サーンスがリーダーとなって「国民音楽協会」が結成され、フランス人による器楽作品が次々と発表されるようになりました。《オンファールの糸車》はサン＝サーンスがそんな意欲に満ちていた頃の作品で、中間部では力強さも感じます。

## デュビュニョン：アルトサクソフォン協奏曲 op.89 《英雄的》(2021)

本日が世界初演となるアルトサクソフォン協奏曲《英雄的》。この作品は、サクソフォン奏者の上野耕平さんが作曲家リシャール・デュビュニョンさん(1968～)に、アルトサクソフォンとオーケストラのための曲を作ってほしいと頼んだことで誕生しました。上野さんは2018年6月に北フランスにあるデュビュニョンさんの自宅を訪ね、実際に楽器を演奏しながらじっくりと語り合ったそうです。デュビュニョンさんは2021年5月にこの作品を完成させました。

曲は3つの楽章で成り立っています。**第1楽章**はアルトサクソフォンが急速で表情豊かなパッセージを奏で、オーケストラはリズムカルな音楽で盛り上げます。**第2楽章**はゆったりとした曲想となりますが、途中でサクソフォン奏者の腕の見せどころである「カデンツァ」となり、即興風の音楽を聴かせます。**第3楽章**ではジャズ風のベースに乗ったビッグバンド風の音楽となり、情熱的なフィナーレを迎えます。

## サクソフォン 上野耕平 Kohei UENO, Saxophone



©Yuji Ueno

東京藝術大学器楽科卒業。第28回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門第1位・特別大賞(史上最年少)。2014年第6回アドルフ・サククス国際コンクール第2位。NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団ほか、国内のほとんどのオーケストラと共演。NHK-FM『×(かける)クラシック』の司会、テレビ『題名のない音楽会』へ出演などメディアとの相性も良い。音楽以外にも鉄道と車を愛し、深く追求し続けている。CD最新作は『Eau Rouge』(eplus music / 2023年9月発売)。

# 指揮 大友直人 Naoto OTOMO, Conductor



©Rowland Kirishima

桐朋学園大学在学中に 22 歳で N 響を指揮してデビュー以来、わが国を代表する指揮者のひとりとして、日本の音楽界をリードし続けている。現在は東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督を務めている。また、大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授、京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授として後進の指導にあたっている。

邦人作曲家作品の初演、ジェームズ・マクミラン作品やジョン・アダムズのオペラの日本初演など幅広いレパートリーでも知られている。

## サン＝サーンス：交響曲第 3 番 ハ短調 op.78 《オルガン付》

サン＝サーンスは小さな頃から鍵盤楽器を得意としていましたが、のちにオルガニストとして最高の地位とされるマドレーヌ寺院（パリにあるギリシャ神殿のように立派なカトリック教会）のオルガニストを務めたほど、見事なオルガン演奏を聴かせたそうです。



マドレーヌ寺院

そんなサン＝サーンスがオルガン・サウンドの魅力を

取り入れたこの交響曲は彼の代表作として知られています。5 つあるサン＝サーンスの交響曲（うち 2 曲は未完成）の最後の作品にあたり、51 歳のときに書かれました。この作品は尊敬するリストに捧げられましたが、初演から 2 ヶ月後にリストはこの世を去りました。

曲は大きく 2 つの楽章に分かれます。**第 1 楽章**は、ミミレレミミドドレレ……



とざわめくように同じ音を繰り返す主題が何度も登場します。やがて音楽はゆったりとした流れとなり、オルガンの温かい響き

が加わります。**第 2 楽章**はドドドドレミミミレ…



と、やはり同じ音を繰り返す弦楽器のエネルギッシュなメロディーで始まり、打楽器や管楽器のパワフルな響きのほか、ピアノも印象的に登場します。オルガンがバーン！と高らかに和音を鳴らすところから後半です。第 1 楽章で登場した主題が明るく鳴り響き、弦楽器間でメロディーが次々と受け渡されたりしながら、華やかにクライマックスへと向かっていきます。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

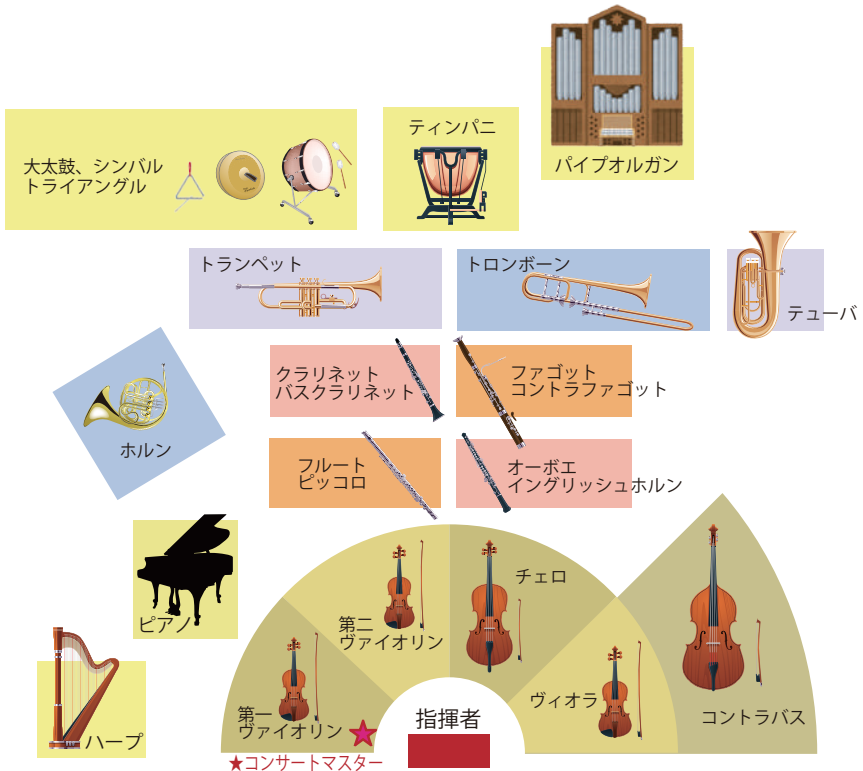
## オルガン 福本茉莉 Mari FUKUMOTO, Organ



©Sonja Werner

東京藝術大学を卒業後、2011 年にドイツのハンブルク音楽演劇大学でヴォルフガング・ツェラーの門下に入る。武蔵野市国際オルガンコンクール、ニュルンベルク国際オルガン週間コンクールなどで優勝。2022 年 12 月にはパスカル・ロフェ指揮 NFM ヴロツワフ・フィルとの最新 CD 『シコラ：オルガンと管弦楽のための《オリヴァ協奏曲》他』(Anaklasis) が発売された。2023 年夏学期までヴァイマル・フランツ・リスト音楽大学にて教会音楽科常勤講師を務め、現在はドレスデンの聖母教会において空席オルガニストの首席代理を務めている。

# オーケストラ配置図（12月2日 プロムナードコンサートNo.405）



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

## TMSO 東京都交響楽団



東京オリンピックの記念事業として1965年に東京都が設立しました。  
都響（ときょう）という愛称で親しまれています。



上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。